

# 精神保健福祉援助技術総論Ⅱ

		単位数	履修方法	配当学年
		2単位	R or SR	2年以上
科目コード	CR3154	担当教員	志村 祐子	



## ■科目の内容

2012年4月からの新カリキュラムにおいて、本科目は「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）」にあたるものです。「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」ならびに「医療と協働・連携する相談援助の方法に関する知識と技術」を習得することが求められています。主な内容は様々な問題に対応する精神保健福祉士としての役割、相談援助の定義・理念・形成過程、他の専門職についての理解をした上での多職種との連携の仕方などについて学びます。「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」を学ぶ上での基盤となる科目です。

## ■到達目標

- 1) 援助技術についての理解を深め実践できる。
- 2) 記録の書き方を理解し実践できる。
- 3) 様々な関連技術について説明できる。
- 4) 多職種との連携の取り方を説明できる。
- 5) ライフステージにおける課題がつかめ、それぞれのステージにおける問題に対する支援の仕方を理解できる。

## ■教科書（「精神保健福祉援助技術総論Ⅰ」と共通（この科目での配本はありません））

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版 精神保健福祉士養成セミナー 3 精神保健福祉相談援助の基盤 [基礎][専門]』へるす出版、2013年

（最近の教科書変更時期）2014年4月

## ■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ソーシャルワーク理論① (第4章1)	ソーシャルワークの実践モデルについて理解する。  キーワード：エビデンス（根拠）に基づく科学的な支援、OJT、国際生活機能分類（ICF）、説明責任、社会生活技能訓練（SST）、生態学的（エコロジカル）アプローチ、システム理論、エンパワメントアプローチ、ストレングス視点、ナラティブアプローチ、ドミナントストーリー、オルタナティブストーリー	教科書 p.87の図4-1「北米におけるソーシャルワークの変遷とその内容」を踏まえ、p.87～92の実践モデルおよびアプローチについて整理する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	ソーシャルワーク理論② (第4章Ⅰ)	精神保健福祉士と社会福祉士の双方の役割と専門性について理解する。  キーワード：コンビネーションアプローチ、多元的アプローチ、一元的アプローチ、セルフヘルプ・グループ、ジェネラリストソーシャルワーク、社会諸目標モデル、相互作用モデル、治療モデル、コミュニティワーク、社会的排除、社会的包摂、ジェネラリストソーシャルワーク	キーワードの各アプローチ、実践モデルについて整理する。
3	ソーシャルワーク理論③ (第4章Ⅰ)	地域を基盤とした生活者としてのソーシャルワークについて理解する。  キーワード：生活の個人的側面、生活の環境的側面、生活の主観的側面、「かかわりの質」、社会的入院者、アウトリーチ	教科書 p.98図4-2「ソーシャルワーカーの役割」を理解し、「支援」のスタンスならびに「支援関係」について考える。
4	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程① (第4章Ⅱ)	相談援助のプロセスを理解する。  キーワード：インテーク、契約、アセスメント、エコマップ、ジェノグラム、支援計画、インターベンション、ミクロ・メゾ・マクロ領域	教科書 p.104～111をよく読み、インテーク～終結までの相談援助の展開について理解する。教科書 p.110の表4-1「アセスメントに必要なデータ」を参考にクライアントの抱えている問題ならびに生活・福祉ニーズを明確化するための情報について考える。
5	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程② (第4章Ⅱ)	ソーシャルワークの定義と構成要素を理解する。  キーワード：個別支援（ケースワーク）、ラポール、生活場面面接、ケース記録、叙述体、逐語録、要約体、フェースシート	教科書 p.112～114をよく読み、個別支援、面接技術について理解する。3つの記録の書き方についても整理する。
6	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程③ (第4章Ⅱ)	グループを活用した支援について理解する。  キーワード：グループワーク、グループ力動、コノブカ	教科書 p.114～117を読み、グループワークにおけるプログラム、コノブカの提唱する14の実践の基本的原理や実践原則を理解する。
7	協働作業としてのソーシャルワークの展開過程④ (第4章Ⅱ)	地域を対象とした支援について理解する。  キーワード：コミュニティワーク、地域福祉、コンフリクト	教科書 p.117～123を読み、コミュニティワーク実践に求められる技法について整理する。教科書 p.119の表4-2「コミュニティワークのプロセスモデル」、p.120の図4-7「地域福祉の構造と内容」から、コミュニティワークの展開過程と内容を理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	社会福祉調査・研究① (第4章Ⅲ)	社会調査における量的調査、質的調査について理解する。  キーワード：全数(悉皆)調査、標準誤差、無作為抽出法、有意抽出法、横断調査、縦断調査、質問紙法、個別面接調査法、信頼性、妥当性、ワーディング、キャリアオーバー効果、単一回答法、複数回答法、数量回答法、リッカート法、自由回答法、観察法、面接法、KJ法、エスノメソドロジー、テキストマイニング、グラウンデッドセオリー	教科書 p.123～133を読み、量的調査、質的調査の各手法や分析方法について整理する。調査するつもりで対象者や調査項目等をイメージしたり、実際に調査票を作成してみると理解が深まる。
9	社会福祉調査・研究② (第4章Ⅲ)	ソーシャルワークの効果を科学的に測定する実践評価について理解する。  キーワード：実践評価、集団比較実験計画法、単一事例実験計画法(シングルシステム・デザイン)、根拠に基づくソーシャルワーク実践、ミックス法	教科書 p.133～136、p.135の図4-10「実践評価の方法」から、実践評価のデザイン(設計・計画)ならびに「何が評価されるのか」を理解する。
10	チームアプローチと多職種連携(IPW)① (第5章Ⅰ)	多職種連携の必要性和精神保健福祉領域における現況について理解する。  キーワード：チーム医療、IPW、IPE、チームアプローチ、専門職構成志向、専門性志向、利用者尊重志向、協働性志向、多職種連携、協力と協働の視点、「協力・合作的関係」、「相談・協議する関係」、「指導・監督の関係」、「医師の指示」、情報の共有化、かかわりの個別化、コンサルテーション、「関係性」、「個別性」	教科書 p.137～146を読み、多職種連携について理解し、「病院を中心としたかかわり」「地域生活を支援するかかわり」において具体的にどのような連携がなされるのか整理する。
11	チームアプローチと多職種連携(IPW)② (第5章Ⅰ)	多職種連携と精神保健福祉士の専門性、利用者の参加について理解する。  キーワード：コーピング、コンピテンス、「相互関係としての人間理解」、「共時性」、「独自のライフスタイルの獲得の保障」、自己決定の尊重、サービス内容の点検、退院基準	教科書 p.146～149を読み、多職種連携における精神保健福祉士の「生活支援の視点」、利用者の参加の必要性について理解する。
12	精神保健福祉領域における精神保健福祉士の生活支援① (第5章Ⅱ)	イギリス型福祉国家の進展と精神保健のかかわりについて理解する。  キーワード：自立生活運動、ノーマライゼーション、インフォームドチョイス、「全人間的復権」、「生活のしづらさ」	教科書 p.150～154を読み、精神障害者の生活支援、リハビリテーション、社会的復権について理解する。退院や就労を意味する「社会復帰」と「全人間的復権」の違いを説明できるようにする。教科書 p.152の表5-1「医療モデルと生活モデルの比較」も内容を押さえる。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
13	精神保健福祉領域における精神保健福祉士の生活支援② (第5章II)	精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割について理解する。  キーワード：ケースアドボカシー、クラスアドボカシー、シチズンアドボカシー、セルフアドボカシー、リーガルアドボカシー、権利擁護	教科書 p.154～158を読み、精神障害者の権利擁護や地域生活支援において果たす役割について理解する。
14	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割① (第5章III)	胎児期～青少年期における精神保健福祉課題と精神保健福祉士の役割について理解する。  キーワード：メンタルヘルス、ライフサイクル、ライフステージ、妊産婦のメンタルヘルス課題、「基本的信頼の確立」、「第1次反抗期」、発達障害者支援法、広汎性発達障害、学習障害、注意欠如多動性障害、いじめ、不登校、非行、問題行動、特別支援教育、スクールソーシャルワーカー、第2次性徴、第2次反抗期、アイデンティティ、ひきこもり、家庭内暴力、薬物乱用、摂食障害、家族問題、児童虐待、子どもの貧困、ニート、ジョブカフェ、ハローワーク、トライアル雇用	教科書 p.158～164を読み、胎児期～青少年期における様々な課題と精神保健福祉士の果たす役割について整理する。
15	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割② (第5章III)	成人期～老年期における精神保健福祉課題と精神保健福祉士の役割について理解する。  キーワード：アイデンティティの見直し、「うつ病」、若年性認知症、更年期障害、プロフェッショナルニーズ、ノーマティブニーズ、デマンド、真のニーズ、フェルトニーズ、「ソーシャルワーク関係」、介護保険制度、「地域包括ケアシステム」、エイジズム、場（トポス）、つなぐ支援、認知症、エンパワメントの活用、役割支援への転換、ケアマネジメント、ネットワークづくり	教科書 p.164～171を読み、成人期～老年期における精神保健福祉課題と精神保健福祉士の役割について理解する。老年期の特徴や認知症高齢者との「かかわり」について留意点を押さえる。教科書 p.165の表5-3「自殺の原因・動機(人)」も詳しく目を通す。

■レポート課題 ※ 2 課題とも1,900字以上記述してください。

1 単位め	「精神保健福祉援助技術総論」3 単位め バISTECKの原則から3つを選び、それぞれの意味について3つを関連づけて述べてください。
2 単位め	「精神保健福祉援助技術総論」4 単位め 多職種との連携の必要性を述べてください。

■アドバイス

テキストは初めて学ぶ人にはやや困難な内容かもしれませんので、参考文献にも目を通し、調べ学習をしてください。また、「ソーシャルワーカーは足で稼ぐ」といわれているほど自分が一つの社会資源となって動くことが大切ですので、実際の現場に足を運ぶなど、目で見て確かめることもできれば行ってください。人とかかわる仕事をしていく上で、いかにコミュニケーションをとっていけるかはとても大切な能力です。自分がしたいことを相手に伝えること、わからないことを人に聞くことも大事なコミュニケーション能力です。

1 単位め  
アドバイス

テキスト35ページから58ページ（初版は33ページから56ページ）をよく読んで相談援助の際にどのようなことが大切になるかを考えながらまとめてください。

2 単位め  
アドバイス

テキスト第5章をよく読んで連携の必要性、その中での精神保健福祉士の役割と専門性について、生活モデルの視点に触れながらまとめてください。

---

■科目修了試験 評価基準

教科書の内容を理解しているかどうかを評価の対象といたします。

---

■参考図書

- 1) F・P・バイステック著 尾崎新他訳『ケースワークの原則』誠信書房、1996年
- 2) C・A ラップ、R・J ゴスチャ著 田中英樹監訳『ストレングスモデルー精神障害者のためのケースマネジメント 第2版』金剛出版、2008年

※教科書記載の参考図書も参考にするとよいでしょう。

---

■履修登録条件

2012年度以降入学者はこの科目の履修登録を「■精神保健福祉援助技術総論Ⅰ」の履修登録と同時にその後に行ってください。この科目での配本はありません。